

今日、六月二十一日は夏至の日です。夏至は太陽が最も北に寄り、北半球では昼が一番長くなります。

この日と、太陽が最も南に寄る日である冬至に「キャンドルナイト」が行われています。これは、世界的に展開されている、照明を消してろうそくを灯して過ごそうというスローライフ運動の一つです。

日本でも二〇〇三年から「百万人のキャンドルナイト」と銘打って行われました。大々的なイベントは二〇一二年をもって終了していますが、その後も様々な場所で自主的に行われています。

キャンドル、つまりろうそくは、日本では奈良時代に中国より伝わったとされ、仏事では欠かせないものとなっています。法要などでお寺を訪れた際に本堂のろうそくとお香の香りに心癒やされた方もいらっしゃるでしょう。

ろうそくの炎のゆらぎは人にリラックスをもたらすともいわれています。又、^{いにしえ}古より私たちはろうそくの^{ともしび}灯に想いを託してきました。

慰霊の法要では、亡き方の数、ろうそくを灯したりいたします。また灯籠流しでも亡き方の^{みたま}御霊をろうそくの灯として流します。

^{まんとうくよう}万灯供養という法要があります。この行事は本堂内に多くのろうそくを灯し、供養を行うものです。

昔インドで王さまが、招待し、教えを示されたお釈迦さまの為に暗くなった帰り道にたくさんの^{あか}灯りを灯しました。そのことを知ったある女性が自分もお釈迦さまのためにと生活が大

『 禅のこころ - 曹洞宗 - 』

変な中、何とかお金を用意して灯りを供えました。大風が吹き王さまの灯りは消えましたが、深い信仰を持った女性の灯りは朝まで消えませんでした。万灯供養はこの逸話のもとになり、お釈迦さまへの灯りの供養を功德として、廻し向ける法要です。

夏至の今夜、電灯を消してろうそくの灯りの下、リラックスした時間を過ごしてみたいかがでしょうか。そして、亡くなった親しい方を想い、環境の事、これからの地球の事、世界に生きる人々の事、自らのこれからの事に思いをはせてみてください。

— 終 —